

「平成30年度『学びのスタンダード』推進事業」の推進地域の取組

パイロット校名	いわき市立小川中学校、いわき市立小川小学校
推進協力校名	いわき市立小玉小学校

「授業スタンダード」に基づく授業改善

昨年度に引き続き、「授業スタンダード」を活用して授業の工夫・改善を行い、より質の高い資質・能力を育む授業づくりに取り組んできた。児童生徒の授業に対する肯定意見が増加し、効果が出始めている。本年度からT Tの導入、単元構成を意識した授業の計画及び実施、家庭学習の手引きの作成など新たな方策も取り入れ研究を進めてきた。

1 パイロット校の取り組み

(1) 小学校における「教科担任制」及び中学校における「タテ持ち」

- ① 小学校においては、国語科、算数科、理科、家庭科、書写に加え、本年度より音楽科において教科担任制、5・6年生算数科でT Tを実施した。

教科担任制は担当教科の教材研究に力を入れることができ、専門的知識や指導技術をより身につけて授業に臨むことができた。また、複数の教員が指導に関わることで、児童が多様な見方や考え方等に触れることができた。

T Tについては、児童の思いや考えを見取る上で効果的であった。

推進教師	5学年担任	6学年担任	教務主任	教頭
5・6年国語	5・6年音楽	5・6年算数	3～6年理科	6年算数 T2
5・6年書写	5年算数 T2			
5・6年家庭				

【小川小学校・各学年1学級】

- ② 中学校においては、数学科、英語科においてタテ持ちを実施した。また両教科で週1回T Tの時間を位置付けた。

縦割りの実施により、学年の枠を超え、教科に対する共通認識を持つたり共通実践を行ったりすることができた。

職員	数学科			英語科		
	A	B	C	D	E	F
1年	1組	2組		1組	2組	
2年		1組	2組	1組	2組	
3年	1・2組 T2	2組	1組	1組	1・2組 T2	1組

【小川中学校・各学年2学級】

今年度からT Tを導入して授業を実施し、生徒のつまずきや個の学びに応じた助言をすることができた。また、習熟度別学習も取り入れ、個に応じた適用問題に取り組ませた。



【数学科における習熟度別学習】

(2) 小川小学校における授業実践

① 授業力向上のための手立ての設定

主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、授業力向上のための核となる手立てについて「授業スタンダード」から6項目設定し、授業者はその中から2～3項目を選択して授業に取り入れた。

「教材との出会い」「多様な言語活動」「計画・方向付け・見通し」「見取り・支援」
「ペアやグループ・学級全体での話し合い」「まとめ・振り返り」

② 授業研究の実施

ア 全学年で国語科または算数科の研究授業を行った。合計6回8授業で実施した。

イ 参観者は手立てごとに感想等を付箋紙に記入し、事後研究会で活用した。また、「授業スタンダード」チェックシートにもチェックしてもらい、授業の成果や課題を明らかにする一助とした。

1年算数科 授業 事後研究会記録シート
H30.10.12 (金)

「授業スタンダード」チェックシートによる評価

第 学年 算数科全体授業 《 先生 》 H30年 月 日(金)5校時

番号	項目	平均点
4	子どもの「問い」や「思い・願い」を引き出し、学習課題を設定している。	4
5	子ども一人一人に追究・解決の計画や見通しをもたせている。	3.6
6	机間指導で子どもを見取り、適切に支援している。	3.5
7	言語活動が効果的に位置づけられ、深い学びにつながっている。	3.7
9	本時のねらいに迫るように話し合いをコーディネートしている。	3.6
10	本時で学習したことを明確にし、振り返りを工夫している。	3.7
11	新たな学びに目を向けさせる終末になっている。	2.6
12	授業の流れが分かり、構造的な板書になっている。	3.7
13	吟味し精選された発問をしている。	3.1

手立て1 ★ 教材との出会い

① 12-9の確認
揭示を用いての確認がよかったです。揭示が少し少なかったり、11-9など言わせたりも良かったです。

算数コーナーを利用して、前時から自然な流れができたのかなと思います。

算数コーナーに「のり」「す」「はり」「はり」などの言葉がでて、見通しもちょうどよかったです。

② 前時の学習をまとめた揭示を明確にし本時のめあてにつなげていったのはたいへんよいと思う

前時までの振り返りもできし
自力解決のときに、算数コーナーを
みて、ヒントにしている子もいてよかったです。

③ 算数コーナーを活用して
効果的に振り返りが
できました。

問題文から出身ではなく、挿絵、
挿絵・生活科で行うおもちゃの絵と
あわせて意図が高まりました。

③ 漢字・計算大会の実施

基礎・基本の定着を図るために、年間12回の「漢字・計算大会」を実施した。朝の国語タイム・算数タイムの時間を活用し、隔週で取り組んだ。

(3) 小川中学校における授業実践

① 「授業スタンダード」の活用

昨年度作成した本校独自の「授業スタンダード項目」を再編し、日常の授業に取り入れた。

本年度はその中から次の3点を重点化して研究を進めた。

「教材との出会い」「考えを共有・吟味」「振り返り」



【美術科での教材との出会い】

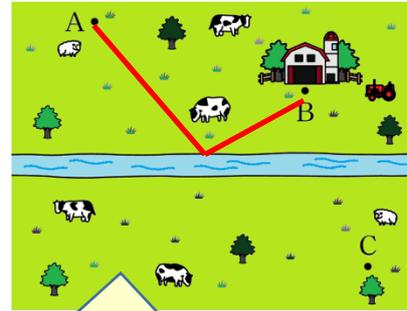
② 単元全体を見通した指導計画（単元構成を意識した授業）の作成

本校の共通実践として、習得と活用を意識した授業を展開した。数学科では教科書の活用力を育てる問題や自作問題を利用して、「活用力」を育成する授業研究を実施した。【右図】

③ 互見授業・授業研究の実施

ア 2ヶ月間の互見授業実施期間を設け、専門教科と専門外教科の2授業を参観した。

イ 要請訪問4授業、範例授業を5授業、研究授業を5回実施し、校内研修を充実させた。



牛がAから川の水を飲んでBまで行く最短コースは？

(4) 推進地域における教育講演会の実施

地域内の全教職員及び市内中学校の教職員を対象に、教育講演会を実施した。早稲田大学教職大学院の田中博之氏に「資質・能力を育む、授業づくり～主体的・対話的で深い学びを通して～」をテーマに「主体的・対話的で深い学び」の特徴や「深い学び」の技法等について講演をいただいた。

2 推進協力校の取組内容

- 「授業スタンダード」に基づく授業公開の実施
昨年度に引き続き、パイロット校Ⅰ、Ⅱに先駆け、「授業スタンダード」に基づく授業を実施した。

3 成果と次年度に向けて



【推進協力校における授業研究】

(1) 成果

- ① 小中合同で授業研究を実施することにより、互いの子どもの実態や教師の指導法を知る契機となり、それぞれの実態や指導を踏まえて授業を行う意識が高まった。
- ② 発達段階ごとに「家庭学習の手引き」を作成し、各段階で育成する子どもの姿を共有することができた。また、それぞれの学校の創意工夫のもとで、基礎学力の定着を図る取組が図られた。

(2) 課題

- ① 小中合同で授業研究会を継続して実施する。その際、学習内容の連続性や各段階での学び方を意識して授業実践に取り組むなど、9年間を見通した資質・能力の育成を図る。
- ② 家庭学習の内容や方法について、発達段階ごとにめざす児童生徒の姿を明確にし、小中学校で共有して育成に取り組む。
- ③ 活用力を伸ばすために、単元構成を工夫した計画の作成や実践を行う。

平成30年度小川中学校授業スタンダード項目

〈導入〉 生徒の「問い」や「思い・願い」を引き出し、課題意識を持たせる。

そのために、教材との出合わせ方を工夫し、学習への動機付けを図る。

A 教材との出会い

- ①具体物を提示する。
- ②既習事項を振り返る。
- ③実演を取り入れる。
- ④対話を通して生活経験・既習事項を想起させる。

B 学習課題の把握

- ⑤生徒の疑問などから学習課題を設定する。
- ⑥学習課題への追究意欲を喚起する。

〈展開〉 生徒一人一人の学びを見取って適切に支援し、学習課題の解決を図る。

そのために、学習の見通しを持たせたり、個での追究・解決の場を設定したりする。また、言語活動や話し合い活動を意図的に位置づける。

C 計画・方向付け・見通し

- ⑦結果の見通しを持たせる。
- ⑧方法の見通しを持たせる。
- ⑨計画や見通しを持たせたか見取る。

D 個での追究・解決

- ⑩思考の状況（何を、どのように考えているか）を見取る。
- ⑪机間指導を通し、次の展開を構想する。

E 多様な言語活動

- ⑫最も効果的な段階に位置づける。
- ⑬目的を明確にして位置づける。（記録、要約、説明、論述など）

F 話し合い活動

- ⑭目的を明確にして話し合い活動を位置づける。
- ⑮他との交流を通して、考えを共有・吟味する。
- ⑯思考過程を可視化する。
- ⑰話し合いをコーディネートし、ねらいに迫る。
- ⑱つまづきに対して、共感的に支援する。
- ⑲働かせた見方・考え方を見取り、賞賛する。

〈終末〉 生徒一人一人に振り返りを促し、新たな学びにつなげる。

そのために、振り返りの場を設定し、学習内容を整理するとともに、新たな気づきや疑問に目を向けさせる。

G まとめ・振り返り

- ⑳学習内容をまとめさせる。
- ㉑学習の経過を振り返らせる。

H 新たな学び

- ㉒新たな学びに目を向けさせる。

〈指導技術に関する内容〉

I 板書

- ㉓見やすく、分かりやすい板書
- ㉔授業の流れが分かる板書
- ㉕学び直しができる板書
- ㉖思考力を育てる板書
- ㉗生徒と共につくる板書

J 机間指導

- ㉘一人一人の学習の様子を見取り、評価する机間指導
- ㉙話合い活動の状況を見取る机間指導

K 発問

- ㉚ねらいを明確にした発問
- ㉛考えを揺さぶるなど、効果的な発問

L ノート指導

- ㉜学習内容を確実に記録させるノート指導
- ㉝自分の思いや考えを記録させるノート指導